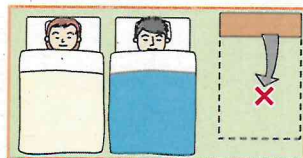


●家庭で出来る地震対策

まずは家の中を安全に

地震で家屋が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、電化製品の落下、ガラスの飛散などにより、大きなケガをしたり逃げ道をふさがれたりします。家具の固定や配置の工夫を行い、家の中を安全にしましょう。



家具などが地震のときに就寝部分に倒れたり、避難経路をふさぐ位置に配置されていませんか？



その他の事前対策

- 部屋の整理・整頓を
- 重いものは下に置き守りましょう
- ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう
- 枕元には夜中電灯・靴を置いておきましょう
- 持ち出し袋はすぐに取り出せる場所に
- 家族との集合場所を決めておきましょう

●震度と揺れの状況(震度階級表)

地震の揺れは、地盤や地形に大きく影響されます。震度は震度計が置かれている地点での観測値であり、同じ市町村であっても場所によって震度が異なることがあります。また、中高層建物の上層階では一般に地表より揺れが強くなるなど、同じ建物の中でも、階や場所によって揺れの強さが異なります。

<h3>震度4</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が倒れる。 	<h3>震度5弱</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	<h3>震度5強</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●物につかまらなると歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。
<h3>震度6弱</h3> <p>耐震性が高い</p> <p>耐震性が低い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 	<h3>震度6強</h3> <p>耐震性が高い</p> <p>耐震性が低い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の前壊が発生することがある。 	<h3>震度7</h3> <p>耐震性が高い</p> <p>耐震性が低い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

緊急地震速報を見聞きしたら

気象庁が最大震度5以上の揺れを予測した時に、震度4以上の揺れが予想される地域を対象に、携帯電話、テレビ、ラジオなどを通じて「緊急地震速報」が伝えられ、その数秒から十数秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守る行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では、「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



緊急地震速報・地震発生時の行動

- 火の始末は揺れが収まってから
2次災害を起さないようにしましょう。
- 身の安全を守る
揺れが続いている間は、テーブルの下などに隠れましょう。
- 出口の確保
ドアが歪んで開かなくならないように開け放しましょう。
- 外へあわてて飛び出さない
出る時は頭を保護しましょう。
- ブロック塀に近づくな!
●余震に注意!
●割れたガラスに注意!

ゆれやすさマップ

